

館報 教育記念館

No.66
平成18年3月22日発行



たくさんの方で賑わう
「中学生、高校生、高専生によるロボット展」



主な内容

- 教育時評 富山県高等学校長協会 会長 中山 慶一 2
- 特別展「中学生、高校生、高専生によるロボット展」 3
- 恒例展「富山県中学校美術展」、会議室利用のお知らせ 他 3
- わが校の歴史から★上市町立南加積小学校 4
- ★富山市立奥田中学校 5
- 長い歴史に幕！県内11小学校 6
- 「学ぼう！ふるさと未来」支援事業報告会開催 8
- 平成18年度の展示計画 8



発行所／財団法人 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町1-5-1
 ☎(076)444-2000 ☎(076)444-2001 E-mail:toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp
 (教育記念館会議室ご利用の場合 ☎(076)433-2770 ☎(076)433-2771)
 発行人／富山県教育記念館 館長 齊藤和夫 印刷所／株式会社宮越印刷



道しるべ

富山県高等学校長協会
会長 中山 慶一

定年退職を目前にして、生徒や先生方から「教員生活で楽しかった事やつらいと思った事は何ですか」「座右の銘や道しるべは?」「やり残した事や伝えたい事は?」などの質問を受け、改めて、上司、先輩、同僚、生徒、保護者など多くの方々に恵まれた38年間であったと心から感謝するとともに、ご指導いただいた数々が懐かしく思い出されます。

昭和43年、学生気分が抜けきらないまま教職に就こうとしている私に、教員の叔父が伝えたいことがあると話してくれました。それは、昭和14年、叔父が小学校訓導の辞令をもらってきて母親に見せると「よかったね、いい職に就いて。でも先生は金儲けの仕事じゃない、人の為に尽くす仕事なんだよ。」「村で一番立派で大きな建物、それは学校じゃないかね。子ども達の為に建てたもんよ。そのことを考えて一人一人大事に育てなさい。」などと諭されたということでした。祖母は明治15年生まれでしたが、保護者や地域の方々の昔も今も変わらない学校に寄せる熱い思いが伝わり、教員としての誇りと使命感を自覚して赴任することができましたし、その後も祖母の教えを道しるべの一つとしてきました。

初任から10年ほど経ち、数学の指導に少し自信が出てきた頃、「数学嫌いの生徒には困ったものだ。こんなに一生懸命教えているのに。」と友人に愚痴をこぼしたところ、寺田寅彦の随筆「アインシュタインの教育観」を読むようにと、私の慢心を諷めてくれました。アインシュタインは「数学が嫌いになる原因がはたして生徒の無能にのみよるかどうだか私にはまだよくわからない。むしろ私は多くの場合にその責任が教師の無能にあるような気がする。(中略)教師は必要な事項

はよく理解もし、また教材として自由にこなすだけの力はある。しかしそれをおもしろくする力がない。(中略)どんな抽象的な教材でも、それが生徒の心の琴線に共鳴を起こさせるようにし、好奇心をいつも生かしておかねばならない。」と語っております。数学嫌いを生む原因は私自身にあると教えられ、数学の指導のみならず進路指導や生徒指導などにおいても「心の琴線の共鳴」を心がけてきました。

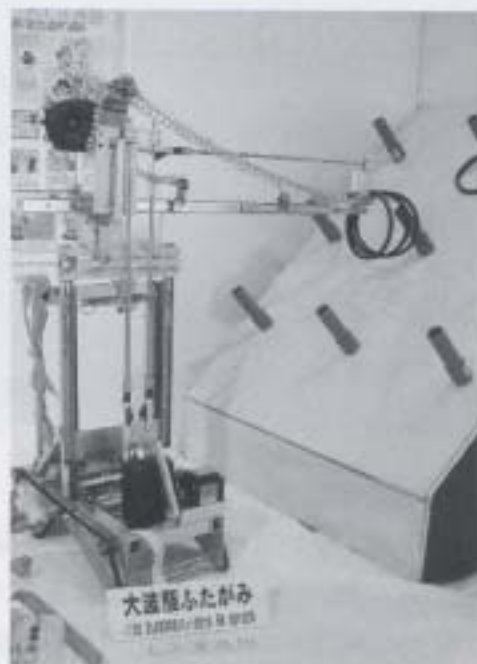
ところで、学年主任や教務主任など校務分掌それぞれに課題はありましたが、同僚や先輩の先生方からの激励とご指導で解決してきました。「仕事は盗んで覚えるもの」という教えがある一方、助言を求めると快く教えて後輩を育てようとする雰囲気のある学校では、それに触発されて自ら研修に励むようになります。どちらの教えが良いのかは、指導を受ける人によって異なると思っています。教頭を拝命したときには、佐藤一斎の説いた「重職心得箇条」が書かれている1枚の紙を、本校の管理職に伝わっている文書だといって上司から頂戴しました。200年前に説かれた全17条どれも常識的で当たり前の内容ですが、その当たり前前の道を踏み外さないようにする戒めの書として、さらに、校長になってからは人を使う立場の心得としても繰り返し読み、日常の職務に生かそうと努めてきました。

それにしても思い出多い教員生活でした。多くの方々との出会いがあり、折々に道しるべともいえるものをご指導いただくなど教えられる事の多い日々でした。「教育は人なり」といいますが、人を教え育てるという崇高な職を何とか全うできることに感謝するとともに、教え子やご教示いただいた方々のご健勝、ご多幸をお祈りしております。

特別展

「中学生、高校生、高専生によるロボット展」開催

財団では、子どもたちにもものづくりの楽しさや各校の技術の高さを知ってもらおうと、「中学生、高校生、高専生によるロボット展」を開催しました。今回が初めてのこの企画では、2005年度の全国高専ロボコンでベスト4に入った「NEO-Gravity」や県の高等学校ロボット競技会で優勝した「大波駆ふたがみ」、中学校のジュニアロボコンで優勝し全国大会で技能賞を受賞した「Move」など、中学校、高校、高専の13校から33体の優秀なロボットが勢揃いしました。「NEO-Gravity」の製作に携わった富山商船高等専門学校の江尻昭一郎君は、「たくさんの小・中学生に夢を与えることができたと思う。将来はこの技術を生かせる仕事に就き、社会に貢献したい」と抱負を語ってくれました。期間中、700名を超える来場者があり、1階の多目的ギャラリーは終始賑わっていました。



恒例展

感性光る作品が並ぶ ～「富山県中学校美術展」～



2月12日から27日までの16日間、県内85中学校の美術科の授業や部活動などから生まれた優秀作品207点を集めた「富山県中学校美術展」を開催しました。会場には、1年生から3年生までの創造性あふれる作品が展示され、なかでも作者の心情を繊細に表現した抽象画や自画像、和紙で作ったランプシェードや粘土を丹念にこね焼き上げた花器、天に向かって物をつかもうとする手を表現した造形など、中学生のみずみずしい感性が光る作品は、たくさんの来場者を魅了しました。

お知らせ

4つの部会の調査順調に進む

財団には、教育資料部会、郷土先賢部会、健康スポーツ部会、特別研究部会と4つの部会があります。それぞれ「定時制高校75年のあゆみ」、「とやまの誇る先人」、「学校給食90年のあゆみ」、「自然に支えられた富山の教育」をテーマに、取材や調査が順調に進められています。次年度には、「自然に支えられた富山の教育」に関する研究紀要が発刊され、自然とのかかわりの中で育まれた富山の教育のあゆみがまとめられます。



会議室のご利用をお待ちしております



空調設備が新しくなり、リニューアルした会議室で会議はいかがですか。ご要望に合わせて部屋のセッティングを行いますので、どうぞお気軽にご相談ください。部屋の空き状況は、財団のホームページでお知らせしております。<http://www.t-hito.or.jp/>
ご利用のお問い合わせは、当館1階受付までお願いいたします。(TEL 076-433-2770)
○大会議室1室(100名程度) ○小会議室3室(20名程度)



知恵 理想 努力の
3つの塔のもとに

上市町立南加積小学校



<校区の概要>

校区は、雄々しい剱岳を仰ぎ、名水百選で知られた穴の谷、古刹として有名な立山寺、弘法大師ゆかりの地と言われる護摩堂など、水と緑の豊かな自然と古い歴史、文化に恵まれた環境にある。

学校の周りは、稲作を中心とした田園風景が広がっている。春にはたけのこ掘り、秋には地域の特産物である「さといもぼらし」の体験学習など、四季折々の活動を地域の方々の協力を得て実施している。

最近「地域の教育力の低下」が叫ばれているが、この南加積校区においては、「子供は地域の宝、子供は地域で育つ」という言葉が、脈々と生きている。

熊避けの鈴、防犯笛などの寄附、早々の防犯パトロール隊の結成、地域の先生など、子供を中心に考えてくださる地域の方々の思いは、大変熱いものがある。

<学校の概要>

明治7年8月、眼目山立山寺眼目校、広市新北野弥助氏宅を仮校舎として時習校ができて以来、今年度で創校131周年になる。

現校舎は、昭和56年10月に地域の方々の思いを託して落成し、「知恵」「理想」「努力」の3つの塔がそびえ立ち、歴史と伝統の重さを表している。

また、子供たちの情操教育のためにと落成を記念していただいた多くの絵画や彫刻は、今も子供たちを見守り続けている。さらには、図書室横に、昭和元年からの卒業写真が掲示されているなど、地域の学校としての役割を果たしている。

ブラスバンド部は、昭和61年に子ども音楽コン

クール文部大臣賞を受けるなど、大活躍をしていた。現在は、当時児童であった地域の方が、ボランティアとして週2回指導に来てくださっている。

<本校の教育>

本校は、「やる気いっぱい 力を合わせ きらきら輝く みなみっ子」を子供たちの合い言葉に、学校教育目標「正しい心 強い体 確かな知恵」の実現に向け、努力を続けている。

平成14、15年度は、上市町が文部科学省の指定を受け、「心に響く道徳教育推進事業」の推進校として、豊かな心の育成に努めてきた。体験活動を通して人とかかわる中で、人間としてよりよく生きるために必要な道徳性を主体的に身に付け、「わがふるさと南加積」を愛する子供を育てたいと願い、現在も研修と研究を継続している。

また、「総合的な学習の時間」では、昭和55年につくられた地域の自然、歴史などを詠んだ「みなみのかるた」を引き継ぎ、これらを中心に学習を進めている。地域へ出かけ、自分の課題解決に向け、子供なりに一生懸命取り組んでいる姿に頼もしさを感じる。

健康面においては、平成13年度より「自らすすんで自分の健康について学習し、主体的に健康生活を実践していける子供の育成」を目標に、保護者、地域の方々との連携を図りながら取り組んできた。

おかげで心身共に健康な子供の姿がみられ、今年度は健康教育実践優良学校総合の部「優良校」に輝くことができた。これからも受け継がれてきた「郷土に立つみなみの教育」の実現に向け、努めていきたい。



今日が楽しく
明日が待たれる学校

富山市立奥田中学校



<学校の概要>

富山市の経済や交通の中心に位置し、生徒数670名の中規模校で、5つの小学校区にまたがっている。保護者は教育熱心で学校行事や地域の活動に積極的に協力する。

本校は、昭和22年4月、学制改革により創立され、開校式・第1回入学式を行い1・2年生265名が入学した。昭和24年7月には現校舎に移転し、竣工式を挙行了。昭和37年には、生徒数が1921名と最も多く、卒業生は672名と現在の奥田中学校の全校生徒数に匹敵する。昭和51年には現在の校舎が、平成8年には現在の体育館が完成し、平成18年3月には耐震補強大規模改造工事が完了した。

部活動が盛んであり、昭和63年7月に富山県スポーツ優良校の表彰を受けており、平成2年には富山県中学校総合選手権大会総合優勝、平成3年には全国中学校選抜体育大会女子バドミントン団体次勝、平成4年には全国中学校選抜体育大会女子バドミントン団体3位、女子複合優勝、富山県中学校総合選手権大会総合次勝、サッカーと女子バレーボールが団体優勝している。文化部では、吹奏楽部がマーチングバンド全国大会に平成3年以来10回出場し、優秀賞・銀賞を受賞するなど、成果をあげている。

<特色ある取り組み>

1 地域との連携協力

・レッツクリーン

昭和63年から実施している生徒会主催の町内清掃活動「奥中クリーン作戦」、最近は「レッツクリーン2005」などとして、地域の自治会の協力

を得て、地域住民・小学生・保護者とともに実施している。

・校区住民運動会

各小学校区の住民運動会に、本校地域生徒会のメンバーが積極的に参加している。企画立案の段階から参加し、校区住民運動会実行委員としてプログラムにも掲載されている。

・地域に学ぶ講座

「地域に学ぶ講座」と銘打って、学校内外で地域のさまざまな特技をもつ人々から学ぶ講座を実施している。

・奥中メールマガジン

保護者との密接な連携のために、「奥中メールマガジン」を発行している。学年または学級を単位として、日々の生活の様子や緊急連絡などリアルタイムに情報を発信し、好評を得ている。

2 予防教育的な生徒指導

・自己有用感をはぐくむ

総合的な学習の時間に、「人間関係づくり」に焦点をあて、社会的スキルを身に付ける体験的なトレーニングを行ったり、ピア・サポート・プログラムの考え方を「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の事前・事後学習に取り入れたりするなど、自己有用感の獲得を目標に取り組んでいる。

・ヘルシータイム

総合的な学習の時間に「ヘルシータイム」を位置付け、生活習慣病や喫煙の害、性についての学習に取り組んでいる。「ヘルシータイム」では健康について考えることを通して、自らの生き方を自己決定できる力をはぐくむことを目指している。

長い歴史に幕！

県内11小学校

宇奈月町立下立小学校



はばたけ

本校は地区のほぼ真ん中に位置し、116年間地域の人々の文化の中心、心の拠り所として大きく寄与してきました。

地域の人々の学校に対する熱い思いは、「はばたけ」の像や100周年記念碑「開け世界に心の窓」、下立大理石に刻んである「明日を考える」のことばなどに如実に現れています。

学校に全幅の信頼を寄せ、子供たちのために地区をあげて環境整備をしてくださる地域の方々熱意をひしひしと感じます。この熱意に支えられ、素直で思いやりいっぱいになった子どもたちが、これからも大きくはばたいていってほしいものです。

宇奈月町立浦山小学校



2度の文部大臣表彰の栄冠に輝く

本校は明治6年、近隣6か村が連合し、浦山の地に創設。その昔、大伴家持が鶯の声で目覚めたという伝承があり、初期は鶯鳴小学校と呼ばれ、今も校章にその名残りがみられる。

戦前は郷土学習が盛んで、農林畜産業の体験活動が児童の自治的運営で行われ、「とりの教育」と称された。戦後は給食指導やPTA活動で二度の文部大臣表彰を受賞。近年は特別活動や生活科、金銭教育の実践に取り組んできた。現校舎は昭和34年に落成した。

宇奈月町立愛本小学校



ユニオンエンタープライズ撮影

「愛本っ子」らしさを

愛本小学校には、「愛本っ子」と呼ばれる50名の子供たちが生き生きと学校生活を送っています。「おはようございます。」「先生～」と、いつも声をかけてくる明るく素直な子供たち。そんな子供たちと共に開校前の1年間を過ごすことができた幸せを感じつつ、統合小学校でも自信をもって「愛本っ子」らしさを発揮してくれることを切に願っています。

富山市立安野屋小学校



理科教育の推進と「考える子」の育成をリード

安野屋小学校は昭和3年に開校した学校である。富山市中心部に位置しながらも、松川をはじめとする豊かな自然に恵まれた歴史ある校区である。

本校は、この3月末に77周年の歴史に幕を下ろすことになる。この間、2度のソニー理科教育振興表彰(優秀賞)を受賞し、理科教育全国大会等も開催している。

そして、今も、天然芝の中庭にはかつての「はたる川」に水車が回り、校舎前庭には四季折々の花が咲き乱れる「校草花壇」、県内のほとんどの樹木が生息する「安野屋の森」などがある。子供たちが学ぶ環境を整え、個に応じた教育実践を通して、県内外の理科教育、そして、「考える子」の育成をリードしてきた学校である。

射水市立浅井小学校



心が和む豊かな語らい

開校記念誌の取材に同行し、地域の長老(95歳)宅を訪問した。「95年の歳月も、過ぎてしまえば一瞬。しかし、振り返るといろいろな思い出があるなどしみじみ思う」「下校時、下足置き場で凍ったわらじに先生がお湯をかけてくれ、温かいわらじを履いて家に向かった。すぐ冷たくなるわらじをぶら下げ、裸足で帰る5・6年生もいた」懐かしげに語る翁の言葉。

振り返れば一瞬の時の中に、思い出すと心が和む豊かな語らいの情景を、子供たちの心にもたくさん残したいと思った。

射水市立櫛田小学校



思い出は、つがの木とともに

歴史の香り芳しい神社の社と豊かな田園地帯に囲まれ、伝統と文化に支えられた本校は、132年の水きにわたり、物心両面で地域の人々に愛され続けてきました。現校舎の新築記念に植樹されたつがの木は、青い空の中にそびえ立って、木々の間をすり抜ける緑の風を子供たちに送りながら、「豊かな心を持ち、活力に満ちた櫛田っ子」の成長を見守り続けてきました。喜びの時も悔し涙の時も大きく枝を広げて子供たちを受け止めてきたつがの木は、地域の方々の思いで、建物が取り壊されても、今の地に残ることとなりました。これからも学舎の思い出と共に、子供たちの心の支えとなることを願っています。

氷見市立加納小学校



四季の美しさを伝える

加納小学校は、明治5年の学制の翌年に誕生して以来、132年の歴史を閉じます。昭和28年に建てられた板張りの校舎は、四季の美しさを143名の子供たちに伝えてきました。桜色に染まる春の学校、ヒマラヤ杉の深い緑に包まれる夏の学校、銀杏の葉が舞い散る秋の学校、雪を積もらせた気高い冬の学校。テレビドラマの撮影現場になったり、CMに登場したり、見る人を温かく包む学校です。子供たちの歌声が消え、元気な足音が途絶えた学校を、壁穴の椋鳥や隠れ裏のムササビが留守番をしてくれるでしょうか。

氷見市立稲積小学校



温もりのある木造校舎

「階段の手すり / すべすべで / 茶色く光った手すり / 細長い手すり / いつもぼくが すべっている / おなかで すべっている / シュール シュール」(5年児童 関 峻之)

明治8年3月、民家を借り開校して130年の我が校。昭和9年築現校舎も71年を経た。

「長い廊下を全校一斉に拭き始めると、床の木目が輝きを増します。これまで多くの子供たちの手で磨き上げられた校舎ともお別れです。」(6年間勤務 山崎裕子)

優しい自然に囲まれた温もりのある木造校舎への思いが募る。

氷見市立余川小学校



余川を愛し、誇りをもつ余川っ子に

満開の桜が散って大柳が芽吹き、花壇にはカンナやサルビアが目を楽しませる。

開校130年目の今年度は全校児童52名と教職員10名でスタート。子供たちの明るく元気な挨拶や歌声が響き、黒光りする廊下や階段の手すりなど、木造の校舎はあちこちに手入れの跡が見える。130年の歴史の重みと、文化の中心として暮ってきた地域の方々の愛校心と熱い思いが伝わってくる。

余川っ子には、今後も余川を愛し、誇りを持ち、地域の発展のためにより伝統を受け継いでほしいと願っている。

氷見市立一芻小学校



みんなの宝物

今年度の花壇のテーマは「みんなの宝物」。どうして花壇がみんなの宝物なのかを、子供たち一人一人が考え、調べ、劇にした。それを、花壇活動でお世話になっている老人クラブの方や地区のみなさんに見ていただいた。花いっぱい、花が大好きな人いっぱい、花と触れ合うスタート地点、みんなの協力・心の集まり、心が温くなる所など。「花壇が一芻の宝物であることがよく分かった」「ずっと続いてほしい」「私にも何かできることがあるのではないかと思った」との言葉をいただき、本校のよさや歴史・伝統を感じ取り、一芻小学校を愛する気持ちを一層深めることができた。

氷見市立上余川小学校



みどり薫る豊かな自然の中で

15名の児童が、「あいさついっぱい、ことばいっぱい、げんきいっぱい」を目指して学んだ今年度をもって、明治6年創立以来133年の永い歴史に幕を下ろす。

みどり薫る豊かな自然環境の中で、学校、家庭、地域社会が一体となった教育活動を展開してきた。中でも、地域の先生と学ぶ、俳句・邦楽クラブの活動が児童の誇りとなっている。

開校式では、得意の箏・尺八で「さくら」を演奏し、新たに大きな一歩を踏み出す。

「学ぼう!ふるさと未来」支援事業の報告会開催

財団では、将来にわたってふるさとを愛し、ふるさにと誇りをもつ子どもの育成を願い、地域と連携して「ふるさと学習」に取り組む学校を支援する「学ぼう!ふるさと未来」支援事業を今年度新しく実施しました。2月23日にはその報告会が行われ、5校の実践活動が報告されました。「自分たちの住む地域や人、自然を誇りに思い、ふるさとへの愛情を育む」「地域の一員として、地域の方々よりよい学校・校区を創っていかうとする子どもの育成」「地域産業の発展に努力している方々にふれ、ふるさとが発展することのよさを感じ取り、ふるさとを大切にしていこうとする心の育成」等、各校の研究主題にそった実践が報告されました。選考委員や出席者からは、「各校が創意工夫を凝らしてふるさと学習の推進に取り組んでおり、子どもたちも先生方も地域のよさを再発見できたのではないか」「心を強くするような、また、地域に育つ根を太くするような実践の数々で、地域の方々の協力もありがたい」といった感想が述べられました。

実践の様子は、当館2階教育記念室の「教育は今」のコーナーに展示してありますので、当館ご利用の際には是非ご覧ください。

平成17年度助成校

- 宇奈月町立浦山小学校
- 立山町立立山芦崎小学校
- 富山市立光陽小学校
- 高岡市立国吉小学校
- 南砺市立利賀小学校



いなさびの収穫(浦山小)



なめこ餅打ち体験(立山芦崎小)



楽しい道歩道作り(光陽小)



リンゴの収穫(国吉小)



ロンレー子ども村森小屋作り(利賀小)



報告会の様子

平成18年度の展示計画

- ◆ 富山県の女子教育100年のあゆみ展
- ◆ 第25回富山県版造形教育作品展
- ◆ マセマティカル・ワールド展
- ◆ 第3回子どもの目・自然不思議発見写真展
- ◆ 第22回教職員厚生会富山支部会員作品展
- ◆ 第24回みんながんばってます展
- ◆ 第18回富山県造形教育作品展
- ◆ 第2回中学生、高校生、高専生のロボット展
- ◆ 第17回富山県中学校美術展
- ◆ 富山大学学生卒業記念書展

- 4月22日(土)～6月2日(金)・8月1日(火)～8月31日(木)
- 6月10日(土)～7月9日(日)
- 7月15日(土)～9月10日(日)
- 9月24日(日)～10月15日(日)
- 10月20日(金)～10月29日(日)
- 11月4日(土)～11月19日(日)
- 11月25日(土)～12月10日(日)
- 平成19年1月13日(土)～1月28日(日)
- 2月13日(火)～2月26日(月)
- 3月1日(木)～3月11日(日)

◆ 恒例展 ◆ 特別展



あ と が き

12月から2月にかけて記録的な大雪に「平成18年豪雪」という名前が付けられました。大雪に名前が付けられたのは1963年の「昭和38年1月豪雪」だけで、43年ぶりのことだそうです。その雪もとけ、まもなく暖かい春を迎えようとしています。

今回、長い歴史に幕を下ろす11の小学校の特集記事を掲載いたしました。各学校の原稿からは、校舎や地域の方々に対する感謝の気持ちと新しい歴史を刻む子どもたちへの期待が伝わってきます。この春が、輝かしい歴史の幕開けとなるよう祈念しております。

最後に、富山県高等学校長協会会長中山慶一先生から「道しるべ」と題し、また「わか校の歴史から」には、上市町立南加積小学校と富山市立奥田中学校から原稿をいただきました。ご多用の中、快くご寄稿くださいました皆様ご厚くお礼を申し上げます。

